試験炉製作状況レポート　⑤

蓋部の金属部が完成しました。高温による応力発生を考慮した形状になりました。

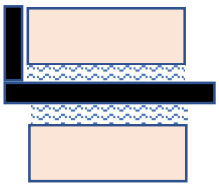
課題は、軽量化にありました。ﾁｪｰﾝﾌﾞﾛｯｸでの吊り上げ方式ですがその取扱いは重要です。下記の写真のような形状ですが、これにｾﾗﾐｯｸﾌｧｲﾊﾞｰﾊﾟｯｷﾝと耐火煉瓦を乗せて行きます。

この形状であれば、可動壁の移動や温度測定位置も比較的自由度が生まれると判断しました。

多少日程がずれましたが、10月は炉体の乾燥工程に入ります。

ﾚﾝｶﾞ・ｾﾗﾐｯｸﾌｧｲﾊﾞｰで

断熱とｼｰﾙ性をﾃｽﾄ



蓋部の構造：ｾﾗﾐｯｸﾌｧｲﾊﾞｰとﾚﾝｶﾞを後乗せして軽量化と作業性をﾃｽﾄ

熱応力での変形をどこで受け止めるか？ﾚﾝｶﾞの重量の影響もﾃｽﾄ

溶接作業は熟練度が必要、工夫も大事でした。

排煙部の調整ﾀﾞﾝﾊﾟｰも設置

この調整で温度を制御？